



新型コロナ5類定点把握疾患に移行および麻疹について

5類感染症へ

大阪府と大塚製薬は包括連携協定を締結し、皆様の健康増進に取り組んでいます。

大阪府 × Otsuka 大塚製薬

一人ひとりができること つづけよな!!

手洗い 効果的な換気 マスクの着用を怠らぬ
マスクの着用を怠らぬ
腕は手洗い

手洗い、効果的な換気などの感染対策のほか、様々な状況がある場合はマスクを着用しましょう。
※具体的な感染対策については、個人の責任が基本となります。

毎日の体調管理も大切に!

健康
3
意識

栄養
運動
睡眠

大阪府HPより
https://www.pref.osaka.lg.jp/iryoo/osa_kakansensho/corona.html#iryokikan

2023年5月8日より、新型コロナウイルス感染症は指定感染症(2類相当)から5類感染症へ移行し、それまで診断例は全例報告の対象であったものが、週に1度定点医療機関からの報告のみとなりました。これによって、これまで法律によって規定されていた罹患者の治療に関する公費負担、他者との隔離が必要な療養期間、無症状病原体保有者、濃厚接触者の取り扱い等は、法律上の規定ではなくなりました。そして療養期間の目安となるものとして、5日間という日数が推奨されることとなりつつありますが、この5日間には特にエビデンスはないと思われますし、実際には**発症後5日目といったら約半数の罹患者がまだ周囲への感染性がある**と思われます(第92回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00348.htmlより)。

当院はもちろん体力・免疫力が低下した方々が多く通院し、入院している病院であり、これまでと同様にエビデンスに基づいた対策を行っていきます。感染症を法律によって類型化し、その主な対応まで法律で規定している国は、欧米等の先進国にはみられません。**新型コロナウイルス感染症自体は何も変化していないのに、法律の取扱いの変更によって、同感染症の感染力や病原性が急に低下したとのイメージを持つ方が少なからずおられることはいかかなものか**と思われます。

新型コロナウイルス感染症(2類相当)と5類感染症の主な違い

新型コロナウイルス感染症(2類相当)	5類感染症
発生動向 ・通常に比べ感染域が広がり、患者数や重症化率が増加する傾向にあり、濃厚接触者の対応が迅速かつ徹底される ・発生動向の把握が迅速かつ徹底される	5類感染症 ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる
医療体制 ・入院治療、入院の場外に帰られた患者による感染のリスク ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる	5類感染症 ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる
患者対応 ・通常に比べ感染域が広がり、患者数や重症化率が増加する傾向にあり、濃厚接触者の対応が迅速かつ徹底される ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる	5類感染症 ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる
感染対策 ・通常に比べ感染域が広がり、患者数や重症化率が増加する傾向にあり、濃厚接触者の対応が迅速かつ徹底される ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる	5類感染症 ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる
ワクチン ・予防接種による感染の抑制が期待される ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる	5類感染症 ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる ・発生動向の把握が困難な状況にあり、発生域が限定的に広がる

厚生労働省HPより
<https://www.mhlw.go.jp/stf/corona5rui.html>

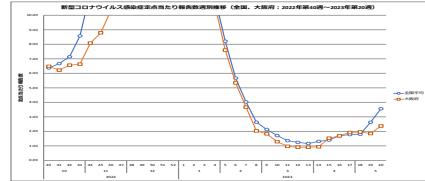


図 新型コロナウイルス感染症定点当たり報告数週別推移(全国、大阪府:2022年第40週~2023年第20週)
※4月以降の定点当たり報告数の増加を確認するために最大値を10.00としたグラフを作成

次に、新型コロナウイルスの定点当たり報告数の週別の推移の図を示します。4月以降は全国、大阪府共に定点当たり報告数は増加傾向にあり、特に5月のゴールデンウィーク明けからは増加が更に顕著になっているように見えます。現状のままの状態が続けば、6月中には流行が本格化してくる可能性があります。新型コロナウイルス感染症の報告数の推移は注視していく必要があります。

最後に、メディアでも取り上げられていますが、茨城県在住の麻疹罹患者の関連として、東京都、神戸市で新たに**麻疹患者の発生**がみられています。神戸市在住の麻疹罹患者の発症は5月6日であり、11日に診断されるまで周囲に感染させている可能性があります。麻疹の**感染力は非常に強い**ですから、しばらくは大阪においても注意していく必要があります。(感染管理室 安井良則)

細菌検査室のお仕事 PART-2



細菌検査室では感染症の原因となっている細菌(起炎菌)を探す(検出する)ため日々奮闘しています。各種検査材料から、起炎菌を検出し、その起炎菌に対してどのお薬(抗生剤)が効くのか効かないのかを調べて(薬剤感受性試験)、臨床へ検査結果を返却し、感染症治療の一端を担っています。そんな細菌検査室のことをちょっと知ってもらいたく...2022年の細菌検査に関するデータをまとめてみました。

内部資料にて閲覧不可